



小笠原村立小笠原中学校 学校だより

令和2年12月1日 第8号
小笠原村立小笠原中学校
校長 小野満 賢

学校ホームページ
<http://www.ogachu.que.ne.jp/>



学校フェイスブック
<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



母の煮物

校長 小野満 賢

昼になり、弁当を食べようと通学に使っているスポーツバッグのファスナーを開けた途端、何かの匂いが鼻を突いた。よく見ると弁当箱が何かの拍子で横になり、弁当のおかずの「煮物」の汁が漏れ、弁当の包みからバッグの中にしみ出してしまっていた。悲しいことに被害は教科書の一部と部活用のジャージにも及んでいた。私が中学一年のある日のことである。

無造作に弁当箱をバッグに突っ込んだ自分のことは棚に上げ、この「大惨事」の原因を、私は全て母のせいにした。腹の虫が治まらない私は、夜、仕事から帰ってきた母の前に、手を付けなかった弁当箱を突きつけ、相当の剣幕で文句を言った。「この弁当のせいでカバンの中がぐちゃぐちゃだ!」「弁当に煮物なんか入れるな!」「こんな弁当食えるか!」(今思い返すと自分のあまりの分別の無さに、呆れるのと恥ずかしいのとで穴があったら入りたい心境である。)すかさず母が怒鳴り返してくるかと思ったが、この日の母は何も言わず、背を向けて、黙って弁当箱を洗いはじめた。やがて洩(はな)をすすする音がして、母が泣いているのが分かった。気丈な母の涙を見たのはおそらくそれが初めてで、私はおろおろしながら、「何ということをしてしまったのだろう」と猛烈に後悔したのだった。

食べ盛りの息子たちへの三度の食事作りは大変だったに違いない。母は誰よりも早く起きて朝食の準備をし、兄と私の弁当を作ってくれていた。仕事帰りに買い物をし、腰を下ろす間もなく夕飯の支度をしていた。片付けをするのも母だった。それを知らなげろくに手伝いもせず、煮物の汁が漏れたくらいで母に当たり散らした自分が情けなかったが、素直でない私は「ごめんなさい」が言えなかった。次の日から作ってもらった弁当に一切文句を言わず全て平らげた。そんなことぐらいしか母への反省と感謝の気持ちを表せなかった。母はそれから毎日、私が高校を卒業するまで弁当を作ってくれた。ただ、その日を境に弁当に煮物が入ることはなかった。

高校卒業と同時に、私は地元を離れ東京で一人暮らしをするようになった。予備校や大学に通いながらバイトに明け暮れる毎日となった。バイト先の中華の賄(まかな)いにも飽きてくる。外食や中食(なかしょく)は脂っこい洋食が多くなる。不定期の一人分の自炊は食材をことごとく腐らせてしまうし、おまけに何を作っても同じ味になってしまう。ふとあの母の煮物の味が恋しくなり、地元のスーパーや惣菜店で買ったり、食事処で注文したりすることがあった。しかしあの母の作る煮物の味とは何かが違う。あの味はどこを探しても見つからない。それは実家を離れて初めて気付いたことであった。

上京してからは金も暇も無いことを理由にほとんど実家に帰らなかったが、結婚し子どもができる、孫の顔を見せに何年かおきに帰省するようになった。私の顔を見ると、母は決まって、何か食べたいものはないかと聞く。私はいつも「煮物」と答えた。あの日のことを母が覚えているかは分からないが、そうすることがせめてもの罪滅ぼしのつもりであった。十年くらい前までの話である。特別な物が入っているわけではない。母の作る普通の、ごろごろした根菜だらけの鍋一杯の煮物を、しかしここでしか食べられない懐かしい味を、あの日のことを思い出し、心の中で詫びながら食べるのだった。母の煮物は本当に美味しかった。それを伝えると母は目を細め、たくさん食べなさいと言って嬉しそうに笑うのだった。

現在八十半ばになる母は、地元の施設で静かに暮らしている。ずいぶん前に料理の作り方も忘れてしまった。私の顔も分からない時がある。もう母の作るあの煮物は食べられない。もっと足繁く帰省して母の料理を食べておけば良かったと今さらながら思う。あの一件を母が覚えているか確かめることはついにできなかった。きちんと謝れなかったことが今となっては大きな後悔である。

本校には「お弁当の日」という、平成24年度から続けられている貴重な取組がある。「食育講話」

と並ぶ食育の大きな柱の一つで、月に一度、生徒が自ら弁当を作ってくることになっている。中には食材を求めて入港日に買い物に来ている生徒もいる。当日の朝はいつもより早起きをし、弁当づくりに取りかかるのだろう。回を重ねるうちに、味だけではなく彩りや栄養バランスも考えられるようになっていく。家の人に助けってもらってぎりぎり間に合ったと教えてくれる生徒もいる。きょうだいで役割を分担している家もある。最近の一部でキャラ弁ブームも起きている。いずれにせよ、朝の台所での奮闘ぶりが、昼に広げたそれぞれの弁当から想像できる。

自分で作ると弁当づくりの大変さが分かる。食材の旬も価格も、消費期限も食品ロス問題も身近なものになる。効率よく作るための段取りや工夫もできるようになる。そして自ずと普段の自分の家の味に近付こうとするのだろう。いずれその味を守り、未来に伝承することにも繋がっていくのだろうと思う。「ごちそうさま」「美味しかった」「いつもありがとう」毎日弁当を作ってくれる家族への感謝の気持ちもまた、自分で弁当を作ることを通して深まっていくに違いない。

あの頃の、分別のかけらも無かった自分にこそ必要なことだったと、今さらながら思うのである。

第3学年 父島保育園との連携授業「家庭科 保育実習」

家庭科担当 高部 みなみ

11月9日(月)に家庭科の授業の一環として、3学年の生徒が父島保育園にて保育実習を行いました。保育実習の事前学習では、年齢別の担当班に分け、保育実習を行う70分をどのような内容で組み立てるかということを考えてきました。当日は、自分たちが製作したおもちゃを活用した遊びや発達段階に合わせた遊びを計画どおりに進めるために、班員同士で協力し合い、時に保育士の先生方にフォローしていただきながら、有意義な70分を過ごすことができました。

事後学習時には、「可愛い!」「保育園が懐かしかったな〜。」「〇〇先生変わらなかったね。」等の感想が飛び交っていました。生徒自身が「子どもの愛おしさ」と「自分がここまで育つための多くの人の支え」を感じることができ、保育実習が大変意味のあるものだったと感じています。

「地域で子どもを育てる」ということにおいて、小笠原の環境は原点であると感じます。生徒たちには、この小笠原の中学生として、自分には何ができるのかということを含め、今後引き続き考え、そして行動してほしいと思います。



第1学年 総合的な学習の時間「働く人の話を聞く会」

第1学年担当 佐々木 若葉

1学年では、11月11日(水)の総合的な学習の時間において「働く人の話を聞く会」を行いました。今年度は、広島県と小笠原中学校図書室をオンラインでつないで実施する形となりました。講師の先生として広島大学医学部地域医療システム学教授の松本正俊先生にお願いし、松本先生が教師・研究者・医師としてこれまで取り組んでこられたことや、お仕事に対する思いなどについてご講演いただきました。松本先生は、広島県でへき地医療の医師育成に携わっておられ、「広島大学ふるさと枠」を推進されています。「広島大学ふるさと枠」とは、医学部進学のための学費を自治体が負担して、へき地の医師となる学生を支援するもので、離島出身の医師志望学生も是非活用してほしいとお話でした。生徒たちはたくさんメモを取りながら熱心に講演を聞き、活発に質問をしていました。「世界には想像もつかないようなことがたくさんある。どの職業を選んでも、その仕事に就きたいという強い思いをもって今から努力してほしい」というお話を、真剣な眼差しで聞いていた生徒の表情が印象的でした。



バドミントン部 強化練習会

バドミントン部顧問 佐々木 若葉

10月24日(土)～26日(月)に、多摩・島しょ習慣定着促進事業バドミントン強化練習が行われ、2012年に行われたロンドンオリンピックで、バドミントンダブルス銀メダリストに輝いた藤井瑞希さんと、コーチの小山季絵さんよりご指導をいただきました。小笠原中と母島中、小笠原高校が合同で練習を行い、総勢21名の生徒とコーチ、関係者で大規模な練習会となりました。藤井さんは昨年度に引き続き3回目の小笠原訪問となり、毎回生徒に合わせたメニューを考えてくださり、1人1人丁寧にアドバイスしてくださいました。様々な練習内容に生徒は興味津々で、積極的に取り組み、3日間の上達ぶりに驚かされました。小笠原村教育委員会をはじめ、このような機会を作っていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



バレーボール部 強化練習会

バレーボール部顧問 高部 みなみ

11月7日(土)～19日(月)にバレーボール部の強化練習が行われ、女子バレーボールU-18監督の三枝大地さんと元全日本女子バレーボール代表として活躍された横野有紀さんにご指導いただきました。基本的な体の動かし方から試合の動きを想定した実践的な練習まで幅広くご指導いただきました。生徒たちは、「考えるバレー」をするという、ハイレベルな練習に頭を悩ませながらも、「チームでバレーをする」ということを再度意識することができました。厳しい練習ながらも生徒たちの充実した顔が有意義な時間だったことを表していました。

新型コロナウイルスの影響で、1ヶ月半の延期にはなりましたが、今回の強化練習を無事に行うことができましたのも、講師の先生方や教育委員会の方々をはじめ、保護者の皆様や地域の方々のご理解とご協力のおかげです。この場をお借りして、再度お礼申し上げます。本当にありがとうございました。



ALTを活用した英語や英会話の授業の充実

国際社会のグローバル化が進む中で、学校教育においてもこれまでの文法重視の英語教育から英語でのコミュニケーション能力の向上を重視した英語教育に変わってきました。小笠原中学校においても、ALT (Assistant Language Teacher) と呼ばれる「外国語指導助手」として、ルース先生が毎週水・金曜日の週2回勤務しています。各学年の英語の授業をはじめ、特色ある教育活動として実施している英会話の授業でもALTの活用を進め、英語科教員とのチームティーチング、スピーキングテストの実施、撮影した動画を活用した指導等を行っています。



12月の行事予定

- 1日 (火) 職場体験 (2年) 自転車安全点検
安全指導 耳鼻科検診 (1・3年)
エピペン講習会 (1年)
- 2日 (水) 職場体験 (2年)
- 3日 (木) SC勤務
いじめ対策学校サポートチーム協議会
- 4日 (金) 三者面談始 自転車安全点検 (2年)
- 7日 (月) 生徒会朝礼 ピアノ音楽鑑賞会
- 8日 (火) 避難訓練
- 9日 (水) 硫黄島学習会 (2年)
- 10日 (木) 食育講話
- 14日 (月) 学校朝礼
- 15日 (火) お弁当の日 ファミリールール講座
- 16日 (水) 芝生の日 父母生徒会交流会
- 17日 (木) 新入生保護者説明会
- 18日 (金) 地域学校保健委員会
- 19日 (土) 音楽発表会 総合発表会 (3年)
- 21日 (月) 振替休業日 (19日 (土) 分)
- 22日 (火) 学校朝礼
- 24日 (木) SC勤務
- 25日 (金) 大掃除 全体学活 終業式
- 26日 (土) 冬季休業日始

1月の行事予定

- 1日 (金) 元日 成人式 (父島・母島)
- 7日 (木) 冬季休業日終
- 8日 (金) 始業式 安全指導 発育測定 SC勤務
百人一首大会 自転車安全点検
- 11日 (月) 成人の日
- 12日 (火) 各種委員会 中央委員会
- 13日 (水) 食育講話
- 14日 (木) 避難訓練 SC勤務
- 15日 (金) 部活動再登校
- 18日 (月) 生徒会朝礼 展示準備
- 19日 (火) 学校公開・展示始
- 20日 (水) お弁当の日 芝生の日
- 21日 (木) 振替休業日 (23日 (土) 分)
- 22日 (金) 第3回英語検定 (一次)
- 23日 (土) 総合発表会 (1・2年)
学校公開・展示終
- 24日 (日) ロードレース大会
- 25日 (月) 振替休業日 (24日 (日) 分)
- 26日 (火) 学校朝礼 展示見学・片付け
都立高推薦入試
- 27日 (水) 都立高推薦入試
- 28日 (木) SC勤務 各種委員会 中央委員会

※ 12月29日 (火) ~ 1月3日 (日) は年末年始の学校閉庁日となります。